

■阿仏尼 歌人。藤原為家の室となって女あるじぶり示し、夫の死後は相続問題で鎌倉に下り、「十六夜日記」を遺した。

あぶつに

公家将軍始・1226＝ この頃、北白河院・安嘉門院と関係深く遠江浜松にも繋がる一族の平度繁の娘に生まれる。(養女説も)  
道元曹洞宗始1227＝ 1歳：父度繁、檢非違使として見える。

御成敗式目・1232＝ 6歳：父度繁、佐渡守に任じられる。

・・・・・・1235＝ 9歳：

はじめ安嘉門院に仕え越前と呼ばれていたが、

虚構多い「うたたね」ながら、追想されているように、宮仕え中に高貴な身分の男と激しい恋に陥るも破局に  
終り、傷心のあまり身を投げようと北山の麓の家を出たが、道に迷って果さず、奈良の法華寺に住み、

九条頼嗣將軍1244＝18歳：

北条時頼執権1246＝20歳：

その後、慶政上人が創建した西山松尾の法華山寺(善妙尼寺?)のほとりに住んでいたが、

恋人(中級貴族)がおり、男子出産に続いて、

・・・・・・1251＝25歳：この頃、娘(紀内侍)を出産して、生活が困窮となったため、

おそらくその慈善尼に紹介されて藤原定家の子為家の娘後嵯峨院大納言典侍為子を訪問し、

日蓮宗始・1253＝27歳：この頃、**為家の秘書・弟子となる。為家鎌倉下向。**

北条時頼出家1256＝30歳：この年、為家が出家。

**「やがて、恋愛関係となって、**

・・・・・・1258＝32歳：この頃、定覚を出産、

立正安国論・1260＝34歳：「宗尊親王三百首」に合点か、

為家の後援で歌合せ等に多数出詠するようになって、「続古今集」以下に四十八首入集することになる。

武家仏教確立1262＝36歳：

北条時頼没・1263＝37歳：**\*為相を出産、住吉・玉津嶋歌合に出詠。**

・・・・・・1264＝38歳：この頃、「乳母のふみ」成立か。

・・・・・・1265＝39歳：為守を出産。別に1女を生む。

**この頃には、為家が正妻と離別したことから、文芸サロン嵯峨の為家邸に同居して名実とも室になり、  
すでに出家し阿仏尼と号していたが、**

北条時宗執権1268＝42歳：

蒙古対馬来航1269＝43歳：**\*飛鳥井雅有の「嵯峨の通ひ」に、女あるじぶりが活写される。**

また、

日蓮佐渡配流1271＝45歳：白河殿百首に出詠。

二月騒動・1272＝46歳：この年、為家が為兼らに三代集伝授。

元寇文永の役1274＝48歳：

元使斬殺・1275＝49歳：**為家が死去、追慕して「阿仏仮名諷誦」。十七番詩歌合ほかに出詠。**

・・・・・・1276＝50歳：「現存三十六人詩歌」成立。

宋滅亡・1277＝51歳：**一家相伝の領地播磨国三木郡の細川荘をめぐる、為家の長男為氏と阿仏の子為相との間に所領争いが起  
きた。はじめ朝廷に訴えたが取り上げられないので、**

元が交易許可1278＝52歳：「弘安百首」に詠進。

無学祖元来日1279＝53歳：**\*子供を残して自ら鎌倉に下り幕府に訴える。この道中記が「十六夜日記」である。鎌倉の極楽寺の境内や  
月影の谷に住いたが幕府の裁決を待ったが、元寇などのため決裁は長びき、**

異国降伏祈祷1280＝54歳：

元寇弘安の役1281＝55歳：「安嘉門院四条百首」成立。

沙石集・1283＝57歳：**鎌倉に下って5年目、裁決を聞かず、月影の谷で、没した。**

阿仏の歌は800首もあり「続古今集」以下の勅撰集に48首、「夫木抄」に59首、「歌枕名寄」に7首収められている  
。散文作品として「うたたね」「十六夜日記」のほか、歌論書「夜の鶴」などがある。また「庭のをしへ(乳母の文  
)」も阿仏の作と伝えられている。阿仏は房名。越前・右衛門佐四條・安嘉門院四條・北林禅尼ともいう。